

平成21年度環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野  
(小規模事業場向け有機性排水処理技術)における実証対象技術の選定について  
(お知らせ)

(同時資料提供 環境省)

平成21年 9月25日(金)

代 表 連 絡 先	社団法人 埼玉県環境検査研究協会 実証事業事務局 担当 野口、鈴木 電話 048-649-1151(内 341・333) 直通 048-649-5496 メールアドレス news@saitama-kankyo.or.jp
-----------------------	--

平成21年度環境省環境技術実証事業(小規模事業場向け有機性排水処理技術分野)として、社団法人埼玉県環境検査研究協会が実施する実証対象技術を選定しましたので、お知らせいたします。

## 1 概要

平成21年6月29日(月)から7月29日(水)まで実証対象技術の募集を行ったところ、2件の申請がありました。

当協会では、申請のあった技術について、形式的要件や実証可能性を検討するとともに、埼玉県環境技術実証委員会において環境保全効果等の観点から検討を行い、以下の技術を実証対象技術として選定し、実証運営機関である財団法人 日本環境衛生センターの承認を得ました。

(1) 厨房排水処理装置“ECOTRIM”

環境技術開発者：OPPC 株式会社 (東京都港区)

(2) 業務用厨房シンク型 油水分離回収機“グリス・ECO DS-2”

環境技術開発者：株式会社 大都技研 (栃木県下都賀郡都賀町)

## 2 今後の予定

今後、実証試験計画を策定した後、実証試験を順次実施し、今年度末までに実証試験結果報告書をとりとまとめ、公表する予定です。

### 【参考】 環境技術実証事業について

環境技術実証事業は、既に適用可能な段階にありながら、環境保全効果等についての客観的な評価が行われていないために普及が進んでいない先進的環境技術について、その環境保全効果等を第三者が客観的に実証することにより、環境技術実証の手法・体制の確立を図るとともに、環境技術の普及を促進し、環境保全と環境産業の発展を促進することを目的として環境省が実施するものです。

平成15年から開始した環境技術実証モデル事業の本格実施として平成20年度から環境技術実証事業として開始されました。

社団法人埼玉県環境検査研究協会では、本技術分野の実証試験と評価技術の普及を行うことが、公共用水域の水質改善に繋がることから、実証機関に応募したところ、大阪府とともに環境省から実証機関として承認されました。

関連ホームページ 環境技術実証事業

[http://www.saitama-kankyo.or.jp/etv/21etv\\_small.html](http://www.saitama-kankyo.or.jp/etv/21etv_small.html)

添付書類

実証対象技術の概要

## 実証対象技術の概要

この概要は環境技術開発者からの情報を基に作成しました。

### (1) 厨房排水処理装置 “ E C O T R I M ”

環境技術開発者：O P P C 株式会社

原理：排水中の油脂類等の有機物をオゾン酸化による物理化学的処理により低分子に分解し、この低分子有機物を活性汚泥により生物学的処理を行うことにより排水中の有機物を浄化する。また、汚泥をオゾン酸化により可溶化することによって汚泥量を低減する。

装置：既存のグリストラップ(実証試験場所のグリストラップは4室に区分されている)を利用し、その第1室に散気管を設置し、エアブロウによりばっ気する。第2、3室にオゾンエア注入器を設置し、オゾン発生器とエアブロウによりオゾンエアを加圧注入する。オゾンエア注入器は円筒状をしており、内部の流体攪拌翼により、供給した加圧オゾンエアで旋回流を起こすと同時に微細な気液混相流を発生させ、オゾンエアが排水に効率よく溶解するように設計された気液混合器である。また、この注入器は加圧オゾンエアが供給されることにより底部の堆積汚泥が吸引され上向流となり、活性汚泥として利用される。

処理：排水は主に第2、3室において、流入、反応、沈殿、静置、放流の5工程からなる回分式オゾン間欠ばっ気活性汚泥法により好気・嫌気を繰り返すことにより処理される。各工程はオゾンエア供給をタイマーによりON/OFFすることによって制御されている。

### (2) 業務用厨房シンク型 油水分離回収機 “ グリス・E C O D S - 2 ”

環境技術開発者：株式会社 大都技研

原理：この装置は、油水が混ざった調理排水や液状残飯ゴミの汁(ラーメンの汁等)などの混油排水を、油分濃度が高い時点で処理するものである。

油水分離を容易にするため、混油排水を加熱し、比重の差により分離された油分を回収する。

装置：処理装置は市販の厨房シンクと同型に設計されており、装置内に、ストレーナー、加熱ヒーター、油水分離槽、油分回収用ベルトが組み込まれている。処理装置は油分を含んだ残飯ゴミの処理と食器洗浄を効率よく行うために、厨房内の既存の食器洗浄用シンクの脇に設置する。

処理：(1) 液状残飯ゴミを装置に投入する。

(2) ストレーナーで固形状ゴミと混油排水を分離する。

(3) 混油排水は油水分離槽で処理水と油分に分離する。処理水は排水され、油分はベルトにより回収される。

(4) 回収された油分はリサイクル資源として利用される。